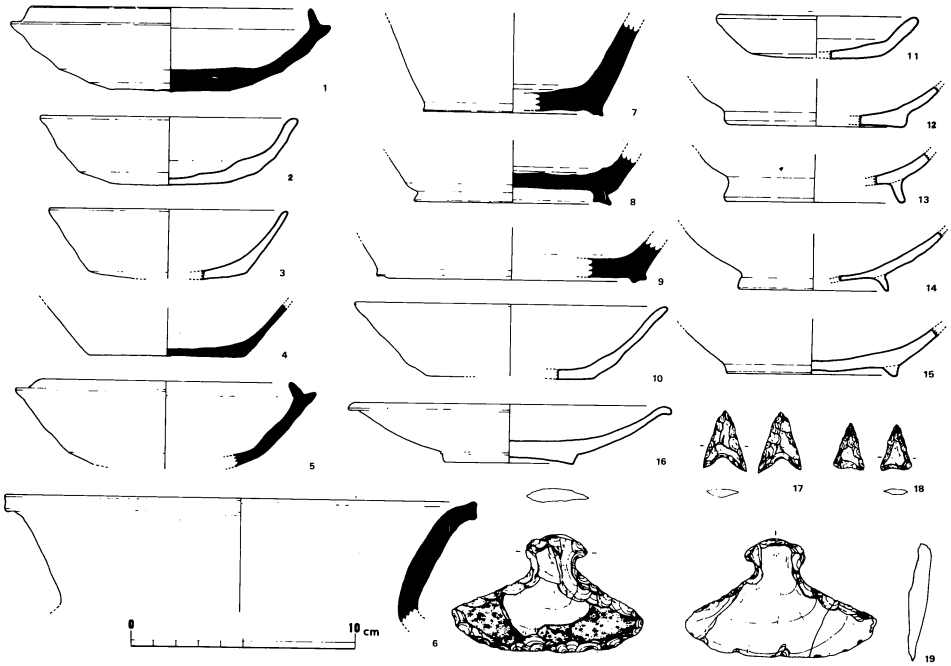
同2，3はＳＢ8502の柱穴より出土した土師器坏であり，丸味を持ち口縁端部に至るものと，直線的なものがある。

同4～15は，ＳＤ8510より出土した土器であり，須恵器（4～9）・土師器（10～15）を時期的に見ると，建物遺構の存在する時期と同時期のものが出土しており，この溝が，当遺跡にとって重要な位置にあったことがわかる。

同16～19は，包含層出土遺物であり，16は緑釉陶器である。計4点出土した緑釉は，全て軟質であり，その内，完形であった皿（16）は，口径14.4cm，器高2.6cmで，底部から直線的にのびた体部は，口縁で下方にまがる。17～19は，包含層出土の石鏃・石匙である。

以上，今回の石田遺跡の調査では，遺構及び包含層からの出土遺物は，削平を受けていることもあり，あまり多くはなく，完形品はきわめて少量であった。




第 9 図　石田遺跡出土遺物実測図

## 4．おわりに

背後に県下有数の古墳群である母神山を控え，眼下に財田川，柞田川，その流れ込む燧灘を見るこの微高地は，古代より集落を営むのに適した場所であったことは言うまでもない。

今回の石田遺跡の発掘調査では，古川銅鐸との関連遺構を期待したが，弥生時代の遺構は検出されず，主として，古墳時代～中世にかけての掘立柱建物が検出された。これらは各時代ごとにまとまりを見せており，規模的にも違った様相を呈している。

今後，刈田郡条里とも関連して，三豊平野における生活址を解明していくのに良好な資料となるであろう。

四国横断自動車道建設にともなう
埋蔵文化財発掘調査実績報告
昭和60年度

1986年 3 月30日
発行　香川県教育委員会
印刷　成　光　社